

# 第17回 Shintoku 空想の森映画祭



〈会期〉 2012  
9.15.sat-17.mon

〈会場〉 新内ホール(旧新内小学校)  
.....  
北海道上川郡新得町字新内



- 千歳空港より～JR特急南千歳乗換約2時間
- 帯広空港より～まずJR帯広駅まで連絡バスで40分帯広駅からJRで約1時間
- 札幌から～JR特急で約2時間、車で約4時間(高速経由で約3時間)
- 旭川から～JR利用で約3時間、車で約2時間半(狩勝峠経由)

★JR新得駅からは約10km、歩くと2時間程かかります。送迎車などはございませんが、JRで新得に到着された方は下記(会場直通)まで電話ください。タイミングが良ければ、他の誰かの車に便乗できるかも知れません!

- お問い合わせ ☎090-8278-6839(映画祭事務局)
- 会場直通(会期中のみ) ☎0156-64-3161(新内ホール)

<http://kuusounomori.com/>

★ボランティアスタッフ募集! ★出店者も募集しています。  
★プログラムはWEBからもご覧になれます。★チケットはWEBから予約出来ます!

- 主催 ●Shintoku空想の森映画祭実行委員会 北海道新聞帯広支社
- 後援 ●新得町・新得町教育委員会

## 【チケット】

	前売	当日
1回券	1,000円	1,500円
通し券	3,000円	4,000円

- 通し券でパーティーを除くすべてのプログラムにご入場いただけます。
- パーティーを除くすべてのプログラム、高校生以下無料
- 前夜祭&さよならパーティーは各1000円

## 【前売券は下記にて!】

- 新得町 ●新得町教育委員会 ☎0156-64-0532
  - 相馬商店 ☎0156-64-5055 / 本通り南1-5
  - Be-Wild ☎0156-64-5200 / R38号沿い
- 帯広市 ●チケットぴあ ☎0155-27-3550 / 藤丸5階
- 音更町 ●のんびり屋 ☎0155-30-8022 / 字下士幌
- 旭川市 ●こども富貴堂 ☎0166-25-3169 / 7条8丁目
- 札幌市 ●大丸プレイガイド ☎011-221-3900 / 南1西3



# 第17回 Shintoku 空想の森映画祭

9月14日(金)☆前夜祭☆参加費・1,000円(立食パーティー)



●19:00～  
「会津磐梯山を踊りながら廃炉アクション！」  
監督：西山正啓・2012年・ビデオ・32分  
えんや～会津磐梯山は宝の山よ～の歌い出しで有名な福島県会津の盆踊りが戦後弾圧され撲滅の道を通った事実はあまり知られていない。2012年2月3日経産省前テントひろばでこの歴史的事実を伝え、踊りを復活しようと東電を刑事告訴した武藤麻子さんによるワークショップが行われた。

●上映後、オープニング・パーティー 西山監督スピーチ他、参加ゲストスピーチ

1日目●15日(土)

●10:00～10:45 (45分)

ドキュメンタリー



原発切抜帖 監督：土本典昭・1982年・16mm・カラー  
土本典昭監督が長年切り抜き続けてきた新聞記事のスクラップブックから、「原子力」をテーマに企画したドキュメンタリー。当時から問題にされていた原子力発電所や政府の姿勢を、日々々に配達される新聞の記事から読み解き、小沢昭一の軽妙な語りと新聞記事だけで構成した「シネエッセイ」。斬新な手法が話題を呼んだ、土本監督の隠れた傑作。

●11:00～11:59 (59分)

ドキュメンタリー



「飯館村～故郷を追われる村人たち～」  
監督：土井敏邦・2012年・ビデオ  
長年「ワレスタナ」取材してきたジャーナリスト・土井敏邦にとって、原発事故という人災によって故郷を追われる飯館の村人たちは「ワレスタナ」だった。住み慣れた土地からの避難を強いられた農民や酪農家は生活基盤を失い、家族は離散する。冷害に苦しむ貧しい農村から、創意工夫と努力で「誇れる村」を創り上げてきた住民たちは、村を去らざるを得ない今、「故郷」とは何かを自らに問い、語る。大人たち間で翻弄される子どもたちの苦悩、その愛しい子を放射能に晒さざるをえなかった親たちの葛藤、「村を残す」をこと優先させた為政者たちへ住民の疑問と不信、放射能への不安と故郷への想いとの間で揺れ動く、「日本の中の「ワレスタナ」」飯館村の現実を記録する。

●第15回ゆいん文化記録映画祭  
松川賞受賞作品

●13:00～14:20 (80分)

ドキュメンタリー



普通の生活 監督：吉田泰三・2012年・ビデオ  
福島県郡山市などでボランティアをしながら、住民の方たち(お父さん、お母さん、子ども、活動家、避難者、高齢者、ボランティア)50名に2011年4月9日にインタビューした「つぶやき」をぜひ見てください。  
●上映後、吉田泰三監督とのQ&A

●15:00～16:30 (90分)

講演



原発事故～福島で何が起こってきたか～  
講師：中手聖一(子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク)  
放射能汚染と政府・原子力産業による福島県民政策は、私たち福島人の「日常」を全て奪いました。事故後の福島に何が起こったか、福島の実情をご報告します。そして未来をどう切り開くのかを、共に考えたいと思います。  
講師：中手聖一●事故後に数人の仲間たちと学校の線量測定等を行い、除染・除染などを進言、その後「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク(子ども福島ネット)」を結成し、20mSv撤収、安全宣伝への対抗、避難の権利確立などの行動を行なう。今年7月から北海道に移住。

●17:00～18:40 (100分)

ドキュメンタリー



脱原発 いのちの闘争  
監督：西山正啓・2011年・ビデオ  
この映画のラストはやらせメールで恥を晒した佐賀県庁。玄海原発の再稼働中止を求めるために訪れた人々が主役である。俳優の山本太郎、福島から避難してきた若い母親も幼い子どもを抱いて参加。私たちはもう福島に帰りたくても帰れない。福島を返して欲しい。  
●上映後、西山正啓監督とのQ&A

●20:00～22:00 (120分)

ライブ

「僕らの魂は音楽でできている」  
宇井ひろし+川本真理コンサート

宇井ひろし●新得町にて農業の傍ら生活に根ざした歌を作り各地で歌い続け30年。音楽が出来れば幸せ。代表曲に「青虫のうた」「さいごのシマフクロウ」など。使用楽器ギター・マンドリン・他



川本真理●神奈川県鎌倉在住のピアノ弾き。その場で音をつくる即興演奏や、自然や旅、日常から生まれた曲で、音楽ユニット「ebisu」やソロ活動をする。今夏、ピアノソロアルバム「カゼノカミサマノイルトコロ」発表。

2日目●16日(日)

●10:00～11:30 (90分)

ドキュメンタリー



沖縄列島 監督：東陽一・1969年・35mm・モノクロ  
沖縄返還前日の日常に横たわる沖縄の数多くの風景、そして人々の声。この様々な現実の断片が寄せ集められてみると、沖縄列島全体が世界に不協和音を発していることに気づく。戦後23年、基地に囲まれた沖縄の日常をすくなく深くとらえた問題作。

●12:30～14:18 (108分)

ドキュメンタリー



●心沖繩@辺野古@高江  
監督：藤本幸久・影山あさ子・2012年・ビデオ  
米軍新基地建設計画が持ち上がって15年、日米両政府に抗して、辺野古で、高江で座り込み、工事を止め続けている人々たち。戦争をさせない、オスプレイを飛ばさない、最前線の闘い、体を張って抵抗を続ける人びとには、沖縄への深い愛がある。  
●上映後、藤本幸久監督・影山あさ子監督とのQ&A

2012年9月15日(土)・16日(日)・17日(月)の3日間

新得町新内(にいない)ホール●北海道上川郡新得町新内

●15:30～16:30 (60分)

ドキュメンタリー



「シネウツソ」ひとつのふところ

監督：Rayoci(木村多栄子)・2012年・ビデオ  
▶上映に先立ち、監督からの挨拶と遠山サキさんの紹介  
いま途絶えつつあるアイヌの心は、世帯をこえて、口から口へ、手から手へと現在へ受け継がれています。日高山脈に連なるカムイだけの麓にある浦河町姉茶、そこで生まれ育った遠山サキはアイヌの心を子供たち、孫たち、ひ孫たちへと世帯をこえて母のふところから生まれた命のリレー。

……続いて遠山サキさんライブ

●16:40～17:10 (30分)

ライブ



アネサラシネウツソ

出演：遠山サキ、床みどり、堀悦子  
アイヌ伝統文化の伝承者である遠山サキが中心となり、娘の床みどり、堀悦子が、浦河に伝わる歌などを紹介します(アネサラシネウツソ口訳：姉茶ひとつのふところ)  
遠山サキプロフィール：1928年生まれ。北海道浦河町姉茶在住。若い頃から周りのフチ(唄(おうた))にウボボ(座り歌)、リムセ(踊り)、手仕事等を生活の中で教えられた。現在もアイヌ文化の伝承に力を注ぐ。

●19:00～21:12 (132分)

ドキュメンタリー



ぬちがふう(命果報)～玉砕場からの証言～

監督：朴壽南・2012年・ビデオ  
太平洋戦争末期の沖繩戦において軍から「玉砕」を強いられた住民たちが次々とその記憶を語る。20数年かけ朴壽南監督が掘り出した証言は、朝鮮半島から運送されてきた軍属、慰安婦の実相をも明らかにし沖繩戦の真実にせまる。

●21:40～22:16 (36分)

短編映画



まとう チマチョゴリを着ることで見てきたのは、世の中の差別や偏見だけではなかった。

監督・脚本：朴英二・2010年・ビデオ  
朝鮮学校の女子生徒のチマ・チョゴリが、何かことが起こるたびに切り裂かれるという事件が繰り返されている。1994年の「核疑惑」を発端に起きた、チマ・チョゴリ切り裂き事件を題材にした。「きっかけは本作挿入歌「チョゴリ」との出会いだった」。事件の風化を防ぐために脚本・制作した作品。

3日目●17日(月)

●10:00～12:00 (120分)

講演



自然のリズムで暮らす～いのちが教えるメタサイエンス～

講師：宮嶋望(共働学舎新得農場代表)  
マヤの暦では2012年は世紀末であり、生き残るのは自然とともに生きる人だといわれている。今、何をすべきなのか、鉄文化といのちの生態系は相入れなのか、ジャレッド・ダイヤモンド氏の「文明崩壊」を超えるのに必要なのは？  
講師：宮嶋望(共働学舎新得農場代表)●1951年東京生まれ。物理、植物生態学を学ぶ。自由学園卒業後米国ウィンスコンシン大学で畜産、酪農の学位を取得。帰国後新得町に入植し共働学舎新得農場を開墾。農場では悩みを抱えた人も含めて現在約70人で生活する。生産するチーズは国際コンテストで金賞をとるなど国際的に評価されている。

●13:00～14:40 (100分)

ドキュメンタリー



この大地に原発のゴミを捨てますか？

「四季・遊牧～ツェルゲルの人々」上映とモンゴル最新情報  
監督：小貫雅男・2006年・ダイジェスト版・100分  
市場経済への急激な移行期に、協同組合を作り、乗り越えようとした遊牧民たち。その後、この地域はどう変わっていったのか、昨年、日米によるモンゴル核処分場建設計画も発表。  
●上映後、1989年からゴビ遊牧社会の調査を続ける今岡良子さん(大阪大学准教授)による、モンゴルの核関連施設の最新レポートとQ&A

●16:00～17:00 (60分)

ライブ

「日常生活」ウ・ラッキーしげるコンサート

音更町下土幌で天然酵母パンの店「のんびり屋」を営んでいる。おもに「日常生活」を題材にして、コミカルでストレートな表現でオリジナルソングを歌う。昔作った歌から最新作まで、たっぷりとお聞かせします。

●18:00～ さよなら・パーティー 参加費 ひとり・¥1,000

☆ひとり一言&ひとり芸持ち寄りパーティー☆十勝・新得の美味しいも立食☆

プログラムはWebでも公開中! <http://www.kuusounomori.com/>  
お問い合わせは…staff@kuusounomori.com

【チケット】●1回券/前売・1,000円(当日・1,500円)

●3日間・通し券/前売・3,000円(当日・4,000円)

\*通し券はパーティーを除くすべてのプログラムに有効  
\*パーティー以外の全てのプログラム高校生以下無料  
\*オープニング&さよならパーティー/各1,000円(当日のみ)

お問い合わせ●090-8278-6839(藤本)

新内ホール・会場直通●0156-64-3161(会期中のみ!)

